

[今すぐ実践！省エネ手法]

オフィスで取り組める省エネ手法を紹介します。施設内での省エネ取組みの際にご活用下さい。

オフィスビルの節電チェックシート（冬季）

3つの基本アクションをお願いします。

項目	内容	建物全体に対する節電効果	実行チェック	日付
照明	可能な範囲で照明を間引きする。（労働安全衛生規則基準値（精密作業300Lx、普通作業150Lx、粗な作業70Lx）にもご留意ください。）執務室の照明を半分程度間引きした際の数値	8.5%		
	使用していないエリア（会議室・廊下等）の消灯をした場合の数値	3.3%		
空調	無理のない範囲で室内の温度を下げる。（右記の節電効果は室内温度を22°Cから20°Cに下げた場合の数値）	2.7%		
	使用していないエリアは空調を停止する。	1.3%		
OA機器	長時間席を離れるときはOA機器の電源を切るか、スタンバイモードにする。	2.5%		

省エネ・節電効果が大きい以下のアクションについて検討をお願いします。

項目	内容	建物全体に対する節電効果	実行チェック	日付
空調	熱源機（ガス熱源は除く）温水出口の温度を低めに設定し、熱源機ヒートポンプ等の動力を削減する。	1.1%		

メンテナンスや日々の節電にもご協力をお願いします。

項目	内容	実行チェック	日付
照明	昼休みなどは可能な範囲で消灯を心がける。		
	従来型蛍光灯を、LED照明に交換する。（従来型蛍光灯から直管型LED照明に交換した場合、約50%消費電力を削減。）		
空調	夕方以降は、ブラインド、カーテンを閉め暖気を逃さないようにする。		
	目詰まりしたフィルターを清掃する。		
	電気室、サーバー室などで冷房を使っている場合には、可能な限り冷房を使わずに外気を取り入れる。または、空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す。		
	室外機周辺の障害物を取り除く。		
	電気以外の方式（ガス方式等）の空調熱源や、太陽熱集熱器やコージェネレーションなどの排熱利用設備を保有している場合はそちらを優先運転する。		
	空調機の節電機能（ピークデマンドカット機能等）を活用する。		
	暖房と冷房の同時使用による室内混合を避ける。		
	排ガスによる放熱ロスを避けるため、ガス吸収式冷温水機について空気比の適正化を図る。		
OA機器	コピー機が複数台ある場合は、使用頻度に応じて稼働台数を減らす。		

〔ご注意〕

- ・記載している節電効果は、建物全体の消費電力に対する目安です。
- ・空調についての節電効果は電気式空調を想定しています。
- ・一定の条件の下での試算結果ですので、各々の建物の利用状況により削減値は異なります。
- ・節電を意識するあまり、保健衛生上、安全上及び管理上不適切なものとならないようご注意ください。

出典：資源エネルギー庁ウェブサイト（『夏季・冬季の省エネ・節電メニュー・リーフレット（事業者向け：沖縄版）』より）